

今こそオンライン教育

新型コロナウイルス 休校で注目

新型コロナウイルスの感染拡大リスクの波が教育現場にも押し寄せ、政府は全国の小中高校などに臨時休校を要請し、高等教育を含めた教育活動が当面の間、滞りかねない。「学校という場に集まらず勉強を続ける方法」として、IT(情報技術)を活用した教育サービス「エドテック」への注目が高まっている。

「中国にいる中学3年のめいこ子はいま、登校せずに自宅で学校と全く同じカリキュラムで勉強しています」

■アプリで手軽に ■自分のペースで



「メガスタディ」で学んだ山岸さんはパソコンの内部カメラに映る講師と対話しながら英語を勉強した

中国全土では、学校だけでなく企業も在宅勤務



ネットチャイナは中国人向けの日本語授業で中国のネットサービス全、デジタルの教育アプリを使っている

を二者に始めている。それが、今年前年中国語を学べるのも、「オンライン」で授業やビデオ会「一さん(37)もネットの職ができるプラットフォームが充実しているとい(音)があるから」(音)が、当初は「本音に効果(音)が、あるのか」と心配だったと明かす。

ただ今では「中国在住の先生と毎日話すこと、中国に留学しているような気分になる。自分には中国のオンライン教育専用のアプリを利用している。即座に質問可能

「アプリは「回答に反応した生徒が先生があてたり、質問に即座に答えるなど、教室で授業を受けるのと同じサービスを受けられる」。スマートフォン(スマホ)でも使うことが可能で、双方向の対話も簡単だ。

「学び止めるな」在宅学習を支援

のりサイクル技術を中国で英語を学び始めた。山岸さんと講師はパソコンの内蔵カメラでテレビ電話のよりにやりとり

「メガスタディ」(音)で学んだ山岸さんはパソコンの内部カメラに映る講師と対話しながら英語を勉強した

「メガスタディ」(音)で学んだ山岸さんはパソコンの内部カメラに映る講師と対話しながら英語を勉強した

塾、予備校も授業中止

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、文部科学省が小中高校などの一斉休校を求めたことを受け、学習塾や予備校にも授業や説明会を中止する動きが広がっている。3月は国立大の2次試験や一部公立高校の入試が行われる受験シーズンで、関係者からは「苦渋の決断だった」との声も上がる。

全国の学習塾で組織する全国学習塾協会(東京)は2月

28日、会員の事業者に、▽およそ2週間をめぐりに対面での授業を最大限控え、延期やオンライン学習を実施▽授業を実施する場合は、講師の体温検査や消毒の徹底——を求めた。各地の学習塾は相次いで授業を中止し、ホームページなどで告知している。

大手進学塾「サピックス小学部」(東京)は、3月2～7日の授業を中止した。小学5年の長女がサピックスに通

う東京都内の女性(43)は「中学入試まで1年を切り、受験生としての自覚が出てきた時だった。学校も休校になり、勉強のリズムが崩れるのが不安。休講分のフォローをしてほしい」と話した。

小学生向けの大手進学塾「四谷大塚」(東京)は、3月1日に予定していた大規模なテスト「リトルスクールオープンテスト」と、3月中旬頃まで首都圏の計6会場です

保護者「勉強に不安」

定していた「中学入試報告会」を中止した。

主)に大学受験を目指す高校生らが通う大手予備校も軒並み授業を中止した。駿台予備学校(東京)は3月2～15日の授業を取りやめ、各校舎の自習室も閉鎖する。代々木ゼミナール(東京)も3月2～8日の授業や入学説明会を自粛し、それ以降については、状況を踏まえて判断する」とした。河合塾(名古屋市)は、高校や大学入試の直前講習を除き、3月2～15日の授業を取りやめた。担当者は「苦渋の決断だが、いまは感染拡大の防止に努めたい」と話した。